兵庫県支部

農商工連携に係る具体的事例の課題・対策調査

1. 農商工連携の具体的な8事例にあたる以下の(1)～(8)について、各々の①事業所名、②テーマ、および③参考とすべきお役立ちポイントは、次のとおり。

- (1) ①(株)丹波姫もみじ ②連携対応による鹿肉市場開拓への挑戦 ③商品化と安全・安心供給の体制づくり、外部との連携、情報発信
 - (2) ①津田宇水産 ②漁業経営における主力商品の確保と事業展開 ③価格決定権の確保、事業承継と後継者育成(家族間連携)、消費者目線と計画性
 - (3) ①西山牧場 ②牧場が味と雰囲気武器にアイスクリームショップを経営 ③立地の魅力を活かすマーケティング、鮮度へのこだわり、家族間連携
 - (4) ①セノヲ(有) ②ギフトショップによる地元農産物を活用した新商品・新事業創出 ③小売業主導での新商品・新事業の創出、販路開拓
 - (5) ①はたんぼ ②NPOによるレストラン併設の有機野菜の販売店開業 ③新規スタッフの活用、生産者との協働化、消費者への働きかけ
 - (6) ①工房あか穂の実り(松田農家) ②農家が農産物加工食品を開発、消費者や商業者等との連携で魅力度アップ ③地域ぐるみ、農家主導型の連携をめざす方向性
 - (7) ①(有)播磨海洋牧場 ②目利きした魚の卸・小売りと漁業者と連携し農商工等連携促進法に基づく事業計画の認定 ③売り先を確保しての生産者への働きかけ ※農商工等連携促進法の事業計画認定
 - (8) ①ヒガシマル醤油(株) ②契約栽培による地場産高品質完熟小麦で、限定醸造淡口醤油を開発・販売 ③実現までの確固たるプロセス、連携者の役割の発揮
- ※ 別途、本文中に、各事例の連携先一覧を添えている。

2. 調査結果を踏まえ、農商工連携に取り組むに際してのポイントと経営姿勢

農商工連携に際し、「産業としての、農・商・工各事業者の多様性を理解し」、「参画事業者や取扱商品、および流通経路などの多様な組み合わせの存在を把握すること」が肝要である。

これらの上で、「農・商・工が相互にオーバーラップする程の相互理解と共に新たな経営環境下での経営判断」と共に、「事業参画者や支援者の、最適組み合わせ」を目指すことが重要である。また、各事業参画者の役割の明確化や、責任遂行も不可欠である。取り組みの展開方法の立案や、事業推進支援においては、まさしく中小企業診断士等の登場場面といえよう。

なお、調査担当者なりの「単なる売買取引と連携との相違点」にも触れている。